概念構造と認知の類型
—中日言語対照の視点から—

Concept Construction and Cognitive Typology in Chinese

張　黎(Zhang Li)

「概念構造と認知の類型」というテーマは総カテゴリです。本年度のテーマは中国語における「動作-結果」の概念構造及び言語認知類型学の解釈。

小論は言語認知類型学の理論に基づいて、日中言語の対照研究を通して、中国語における「動作-結果」という構造、及び語意的な特徴を解釈した。英語、日本語との比較することによって、以下のような結論を出した。

(1)中国語、英語、日本語の対照序列:

英:　施事-动作-对象-结果　　He pushed the door open.

日:　施事-对象-(结果性)动作　　田中さんは卵を割れた。

漢:　施事-动作-结果-对象　　小王打碎了杯子。

(2)中国語の動作-結果の言語認知特徴は中国語の動作-結果が動作の時間の流れの中で表す。例えば:

我吃饱了(动作-结果)　　小王喝醉了(动作-结果)

我饱了(状态)　　小王醉了(状态)

状態と動作結果は異なった意味カテゴリ、区別しなければならない。日本語の動作表現は次のようになっています:

王さんはコップを壊した(结果)　　田中さんは卵を割れた(结果)

(3)日本語の動作状態語は動作の過程しか修飾することができず、動作の結果を修飾することができない。それに対して、中国語の連用修飾語は両方を修飾することができる。たとえば:

A、田中がまじめにあの本を読んだ。(○)　(過程)

B、田中はまじめにあの本を読み終えた。(×)　(結果)

日本語では、A は言えるが、B は言えない。中国語では、両方とも言える。

A 田中认真地读了那么书。(○)　(過程)

B 田中认真地读完了那本书。(○)(結果)

これらの現象は、各言語の相違点が、構造上だけではなく、語意上及び認知上にもあらわしている。言語の対照的研究は、人類言語認知類型学を研究する有効な方法である。

(全文 15000 字,「漢語認知文法と對外漢語語法教學」に刊载预定 2010 上半年)